

1. 日本側参加研究者の体制

| | | | | | | | | |
|---|-------------------------------|----|----------------------------|---|----------------------|---------------------|---|---|
| ①採択年度（和暦） | 平成29 | 年度 | ②採択期間 （通常A型は5年間、B型は3年間） | 5 | 年間 （1年未満は 切上げ） | ③事業の型 （AまたはBを記入） | A | 型 |
| ④日本側拠点機関名（和文） | 九州大学 | | | | | | | |
| ⑤コーディネーター部局名・ 職名・氏名（和文） | カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所・教授・松本広重 | | | | | | | |
| ⑥日本側協力機関名（和文）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。） | | | | | | | | |
| 東京工業大学 | | | | | | | | |

| ⑦参加研究者数内訳 （重複カウントしないこと） | 教授級 以上 | 助教・ 准教授等 | ポストドク等 若手研究者 | 大学院生 | 手引2-4記載の 参加資格のない者 | 合計 | 第三国所属の研究者 （内数） |
|----------------------------|-----------|-------------|-----------------|------|----------------------|----|-------------------|
| 拠点機関 | 3 | 4 | 2 | 0 | 0 | 9 | 0 |
| 協力機関・協力研究者 | 1 | 2 | 0 | 5 | 0 | 8 | 0 |
| 合計 | 4 | 6 | 2 | 5 | 0 | 17 | 0 |

| ⑧手引2-4記載の参加資格のない者の内訳（適宜、行を加除。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。） | | |
|---|------|----------|
| 所属・職 | 専門分野 | 研究交流での役割 |
| 該当なし | | |

| ⑨「第三国所属の研究者」内訳（平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。） | | | |
|--|------|---------------|------------------------------|
| 所属機関所在国・ 所属・職 | 専門分野 | 日本側拠点機関へのメリット | 日本側参加者として一体的な協力体制を 確保する方法 |
| 該当なし | | | |

2. 経費

| 事業の型 A 型 | | | |
|-------------------|---------------------|------------|---------------------------------|
| ①当該年度の本事業による経費の支出 | | | |
| 経費内訳 | | 金額 (単位:円) | 備考 |
| 研究 交流 経費 | 国内旅費※1 | 692,433 | |
| | 外国旅費※1 | 5,862,827 | |
| | 謝金 | 0 | |
| | 備品・消耗品購入費 | 3,574,594 | |
| | その他経費 | 2,610,085 | |
| | 不課税取引・非課税取引に係る消費税※2 | 740,416 | |
| | 計 | 13,480,355 | |
| 業務委託手数料 | | 1,348,035 | 研究交流経費の10% (1円未満切捨)。消費税額は内額とする。 |
| 合計 | | 14,828,390 | |

※1「国内旅費」「外国旅費」の合計が、研究交流経費支出額の50%を超えていない場合、備考欄にエラーが出ます。

※2 受託機関における課税、非課税(免税)の区分に応じ対象額を算定のこと。受託機関で負担の場合はその旨、備考欄に記載すること。

②研究交流経費(総額)の30%に相当する額を超える各経費費目の増減があった場合の説明事由(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)

| 該当なし | | | |
|--|---|---|-------|
| 日本 側 の 旅 費 | ③ 本 事 業 の 旅 費 | 日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本である者の旅費の総額 (単位:千円) | 6,555 |
| | | 日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本以外である者の旅費の総額 (単位:千円) | |
| | | 日本→日本以外の渡航 | 0 |
| | | 日本以外→日本の渡航 | 0 |
| | | 日本以外→日本以外の渡航 | 0 |
| (単 位: 千 円) ④ B 型 の 研 究 者 の 旅 費 の 総 額 | (単 位: 千 円) 左 記 の うち、 第 三 国 所 属 の 相 手 国 側 | 日本または相手国 →日本の渡航 | |
| | | 日本又は相手国 →相手国の渡航 | |
| | | 日本または相手国 →第三国の渡航 | |
| | | 第三国→ 日本の渡航 | |
| | | 第三国→ 相手国の渡航 | |
| | | 第三国→ 第三国の渡航 | |

※旅費は、往復の金額で記載すること(例:第三国から日本に渡航の場合、第三国→日本→第三国の往復の渡航費を「第三国→日本の渡航」の欄に記載)。

経由国がある場合は、日本側拠点機関の規定等に基づき、旅費の分類・切り分けを行い、記入すること。

| ⑤ (B型のみ) 中国・韓国・シンガポール・台湾側参加者の外国旅費がある場合 (交流経費の5%以内。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。) | | |
|--|------------------------|---------------------|
| 総額 (単位:千円) | 手引 2-6 記載の要件を満たす旨の事由説明 | |
| | | |
| ⑥相手国マッチングファンド(=相手国側拠点機関が本研究課題に使用した研究交流経費) (単位:千円、千円未満切捨て) | | |
| 全相手国のマッチングファンド総額 | 相手国拠点機関数 | 相手国拠点機関のマッチングファンド平均 |
| 9,924 | 3 | 3,308 |

3. 共同研究・セミナー

| 事業の型 A 型 | | | | | | | |
|--|--------------------------------------|----------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|------|---|
| ①共同研究（適宜、行を加除すること。） | | | | | | | |
| 共同研究 整理番号 | 共同研究課題名（和文） | 日本側代表者氏名・所属・職名 | 現在の年度に○を付けること | | | | |
| | | | 1年目 実施年度に ○を付ける ↓ | 2年目 実施年度に ○を付ける ↓ | 3年目 実施年度に ○を付ける ↓ | A型のみ | |
| | | | 4年目 実施年度に○を 付ける↓ | | 5年目 実施年度に○を 付ける↓ | | |
| R1 | 固体酸化物セル高性能化に向けたイオン伝導への表面・粒界の影響に関する研究 | 松本広重・九州大学・教授 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| R2 | 全固体二次電池に向けたリチウムイオン伝導への表面・粒界の影響に関する研究 | 石原達己・九州大学・教授 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 共同研究の実施状況（当該年度実施の共同研究について、共同研究整理番号毎に、特筆すべき成果、相手国側拠点機関との主体的な取り組み及び今後の研究への波及効果、研究協力体制の構築状況等について記載すること。また、手引6-3変更事例No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。） | | | | | | | |
| R1 (1)東京工業大学と英国・インペリアルカレッジ・ロンドンにより新規酸化物イオン伝導性および新規プロトン伝導性材料に関する共同研究が実施された。大学院生の英国での研究の結果、従来にない新規プロトン伝導体が見いだされた。Nature Communication誌に掲載され、プレスリリースを行った。 (2)九州大学は米国MITおよびスイスPSIとプロトン伝導性酸化物であるYドーブSrZrO3 (SZY) およびYドーブSrCeO3 (SCY) のホモ界面およびヘテロ界面の特性に関する共同研究を実施した。ポドクがPSIにおいて薄膜を作製し、MITにおいて電気化学測定を行い、照射による粒界特性の変化を捉えつつある。 (3)九州大学は英国・インペリアルカレッジ・ロンドンと酸化物電極材料の表面分析に関する研究を行い、熱処理に伴う方面へのSrの偏析現象の詳細が明らかになりつつある。 | | | | | | | |
| R2 (1)インペリアルカレッジにおいてリチウムイオン伝導性固体（ガーネット）に関する研究が進められている。東工大から派遣された大学院生による本材料の構造解析を計画しており、リチウムイオン伝導バスの可視化を目指しているが、まだ結果が出ていない。今後、さらなる解析を進める。 (2) R-1と共通の課題として「粒界の原子構造モデル」の構築を目指し、九州大学において電子顕微鏡観察およびDFT・分子動力学計算による界面構造の再現を試みている。現在のところ、TEMと計算から導かれる構造の一致に到達しておらず、今後、さらなる検討を進める。 | | | | | | | |

| ②セミナー（当該年度開催分について、記載。適宜、行を加除すること。） | | | | |
|--|--|---|-----------------------|---------------------------|
| セミナー 整理番号 | セミナー名（和文） | セミナー名（英文） | 開催地（国名・都市名・会場名） | 開催期間（○年○月○日～○年○月○日（○日間）） |
| S1 | 日本学術振興会研究拠点形成事業「第6回 高速イオン輸送のための固体界面科学に関するワークショップ・セミナー」 | The Power of Interfaces: Fundamentals for Solid State Devices | 英国・ロンドン・Royal Society | 2020年3月10～2020年3月11日（2日間） |
| セミナーの開催状況（当該年度開催のセミナーについて、セミナー整理番号毎に、参加者数（総数、参加国名ごとの参加人数（本事業経費による負担の有無を問わない）、交流を通じて得られた研究成果の発表・評価・とりまとめの状況、相手国とのネットワーク形成、若手の育成等の効果等について記載すること。また、手引6-3「軽微な変更の事例」の変更事項No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。） | | | | |
| 当初、11月に米国での開催を予定していたR元年度のセミナー・プロジェクトミーティングについては、参加者の都合が合わなかったため、R元年6月の時点で、R2年3月9-11日に英国、ロンドンで開催するよう計画を変更した。ロンドンでのセミナー・プロジェクトミーティングへの本事業メンバーからのセミナーの参加者は、日本から6名（当初10名の予定であったが、コロナウイルス感染症の影響で4名は渡航を取りやめ）、スイスから2名、英国5名であった。米国からはコロナウイルス感染症の影響により渡航がキャンセルとなったため参加者はなかったが、米国代表のYildiz教授がインターネットを通じた講演により本事業の研究成果について発表し、また、JSPS Londonより上野所長のご挨拶と国際交流事業の紹介をいただき、本事業および成果を周知することができた。英国、ドイツ、オーストリア、スペインなどから、固体電解質を用いたデバイスにや材料研究の招待講演が行われ、また、Imperial College Londonを中心として進めている国際共同研究Harvest（日本からは参画していない）からの発表も行われ、意見交換や本事業の研究内容に関するネットワーキングを進めることができた。日本からは2名の研究員が発表を行い、また、前日の3月9日に行われたプロジェクトミーティングでは、東京工業大学の大学院生が新規プロトン伝導体（東工大とImperial College Londonの共同研究の結果発見）について報告するなど、若手研究者の育成も図られた。 | | | | |
| ③当該年度に第三国でのセミナー開催があった場合の、本事業の位置づけ、第三国で開催する経済的かつ合理的な理由、そして相手国側拠点との開催経費の分担状況（セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引2-7（7）参照のこと。） | | | | |
| 該当なし | | | | |
| ④該年度に開催のセミナーで、参加研究者以外の者に本事業経費を使って基調講演を依頼した場合の、日本側拠点機関にとってのメリット（セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引4-4（1）①参照のこと。） | | | | |
| 該当なし | | | | |

4. 研究交流状況

| 事業の型 A 型 | | | | | | | |
|---|-------|-------------|----------------|------|------------------------------|----|--|
| ①日本→海外の渡航数（本事業経費による渡航）（適宜、行を加除すること。） | | | | | | | |
| 国名（派遣先） 第三国は、国名の後に（第三国）と記載すること。 | 教授級以上 | 助教・ 准教授等 | ポスドク等 若手研究者 | 大学院生 | 手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他 | 合計 | うち、31日以上 の渡航数（該当の場合のみ） 役職ごとの内訳も（ ）書きで併記のこと。 記入例：4（教授級以上1、大学院生3） |
| 1 英国（Imperial College London） | 2 | 1 | 1 | 2 | 0 | 6 | 2（大学院生2） |
| 2 スイス（PSI） | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1（ポスドク1） |
| 3 米国（MIT） | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1（ポスドク1） |
| 計 | 2 | 1 | 3 | 2 | 0 | 8 | |
| 第三国への渡航がある場合は、各渡航について、手引4-4（1）①記載の要件を（B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も）満たす旨の事由説明 （適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。） | | | | | | | |
| 該当なし | | | | | | | |

| ②海外→日本の渡航数（本事業経費による渡航）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。） | | | | | | | |
|--|-------|-------------|----------------|------|------------------------------|----|--|
| 国名（派遣元） 第三国は、国名の後に（第三国）と記載すること。 | 教授級以上 | 助教・ 准教授等 | ポスドク等 若手研究者 | 大学院生 | 手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他 | 合計 | うち、31日以上 の渡航数（該当の場合のみ） 役職ごとの内訳も（ ）書きで併記のこと。 記入例：4（教授級以上1、大学院生3） |
| 1 該当なし | | | | | | 0 | |
| 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 第三国からの渡航がある場合は、各渡航について、手引4-4（1）①記載の要件を（B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も）満たす旨の事由説明 （適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。） | | | | | | | |
| 該当なし | | | | | | | |

| ③日本以外→日本以外の渡航数（本事業経費による渡航）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。） | | | | | | | | |
|---|---------|-------|-------------|----------------|------|------------------------------|----|--|
| 国名（派遣元） | 国名（派遣先） | 教授級以上 | 助教・ 准教授等 | ポスドク等 若手研究者 | 大学院生 | 手引2-4記載の 参加資格のない 者・その他 | 合計 | うち、31日以上 の渡航数（該当の場合のみ） 役職ごとの内訳も（ ）書きで併記のこと。 記入例：4（教授級以上1、大学院生3） |
| 1 該当なし | | | | | | | 0 | |
| 計 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 各渡航について、手引4-4（1）①記載の要件を（B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も）満たす旨の事由説明（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。） | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |

| ④海外→日本の渡航数（相手国側経費による渡航）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。） | | | | | | | |
|---|-------|-------------|----------------|------|--------------------------|----|--|
| 国名（派遣元） | 教授級以上 | 助教・ 准教授等 | ポスドク等 若手研究者 | 大学院生 | 手引2-4記載の参加資格のない者・ その他 | 合計 | |
| 1 英国（Imperial College） | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 3 | |
| 2 スイス（PSI） | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | |
| 3 米国（MIT） | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | |
| 計 | 4 | 0 | 1 | 0 | 0 | 5 | |

| ⑤日本→海外の渡航数（相手国側経費による渡航）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。） | | | | | | | |
|---|-------|-------------|----------------|------|--------------------------|----|--|
| 国名（派遣先） | 教授級以上 | 助教・ 准教授等 | ポスドク等 若手研究者 | 大学院生 | 手引2-4記載の参加資格のない者・ その他 | 合計 | |
| 1 該当なし | | | | | | 0 | |
| 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |

5. 交流相手国

| | |
|--|--|
| 事業の型 A 型 | |
| ①相手国名 (和文) | 英国 |
| ②拠点機関名 (和文および英文) | |
| 和文：インペリアルカレッジロンドン 英文：Imperial College London | |
| ③コーディネーター所属局・職名・氏名 (英文) | Faculty of Engineering・Professor・KILNER John Anthony |
| ④協力機関名 (和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。) | |
| 該当なし | |

| ⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと) | 教授級以上 | 助教・准教授等 | ポスドク等若手研究者 | 大学院生 | その他 | 合計 | 第三国所属の研究者 (内数) |
|------------------------|-------|---------|------------|------|-----|----|----------------|
| 拠点機関 | 2 | 2 | 9 | 4 | 0 | 17 | |
| 協力機関・協力研究者 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 合計 | 2 | 2 | 9 | 4 | 0 | 17 | |

| | |
|--|--------------------------------------|
| ⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。) | |
| 所属・職名 (専門分野) | 研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。) |
| 該当なし | |

| | | | |
|--|------|---------------|-------------|
| ⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。) | | | |
| 所属機関所在国・所属・職 | 専門分野 | 日本側拠点機関へのメリット | 研究交流に不可欠な理由 |
| 該当なし | | | |

| | | | | | | | |
|--|---|---|-------------------------|----------------------------------|-------------------------|--------|-----------------------|
| ⑧相手国側の経費負担 負担した：○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし：× 当該年度実施なし：－ | | ⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。) | | ※参考： 日本側研究交流経費 ¥13,480,355 | | | |
| | | 支援機関等名 | ファンド・プログラム名 | 日本円換算額 (単位：千円) | 換算レート日 (例:2020/9/12) | 相手国通貨名 | 換算レート (外貨1単位に相当する円貨額) |
| A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること | 1 | | | | | | |
| (1)日本側研究者の相手国内滞在費 | × | | | | | | |
| (2)相手国側研究者の国際航空運賃 | ○ | Engineering and Physical Sciences | EPSRC-JSPS Core to Core | 348 | 2020/9/6 | GBP | 141 |
| (3)相手国側研究者の日本国内滞在費 | ○ | Engineering and Physical Sciences | EPSRC-JSPS Core to Core | 363 | 2020/9/6 | GBP | 141 |
| (4)相手国側研究者の相手国内旅費 | × | | | | | | |
| (5)相手国側研究者の研究経費 | ○ | Engineering and Physical Sciences | EPSRC-JSPS Core to Core | 3,202 | 2020/9/6 | GBP | 141 |
| (6)相手国開催のセミナー開催経費 | ◎ | Engineering and Physical Sciences | EPSRC-JSPS Core to Core | 3,665 | 2020/9/6 | GBP | 141 |
| (7)第三国開催のセミナー開催経費 (日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと) | － | 合計 | | 7,578 | | | |

※日本側で独自に用意した資金 (学長裁量経費や本事業以外の資金) を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

| 事業の型 A 型 | |
|--|---|
| ①相手国名 (和文) | スイス |
| ②拠点機関名 (和文および英文) | |
| 和文：ポールシェラー研究所 英文：Paul Scherrer Institut | |
| ③コーディネーター所属 局・職名・氏名 (英文) | Material Group・Head of Group・LIPPERT Thomas |
| ④協力機関名 (和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。) | |
| 該当なし | |

| ⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと) | 教授級 以上 | 助教・准教授等 | ポスドク等若手 研究者 | 大学院生 | その他 | 合計 | 第三国所属の研究者 (内数) |
|------------------------|-----------|---------|----------------|------|-----|----|----------------|
| 拠点機関 | 2 | 0 | 3 | 0 | 0 | 5 | |
| 協力機関・協力研究者 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 合計 | 2 | 0 | 3 | 0 | 0 | 5 | |

| ⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。) | |
|--|--------------------------------------|
| 所属・職名 (専門分野) | 研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。) |
| 該当なし | |

| ⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。) | | | |
|--|------|---------------|-------------|
| 所属機関所在国・所属・職 | 専門分野 | 日本側拠点機関へのメリット | 研究交流に不可欠な理由 |
| 該当なし | | | |

| ⑧相手国側の経費負担 負担した：○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし：× 当該年度実施なし：－ | | ⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。) | | ※参考： 日本側研究交流経費 | | | |
|--|---|---|---|-------------------|-------------------------|--------|-----------------------|
| | | 支援機関等名 | ファンド・プログラム名 | 日本円換算額 (単位：千円) | 換算レート日 (例:2020/9/12) | 相手国通貨名 | 換算レート (外貨1単位に相当する円貨額) |
| A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること | | 1 | | | | | |
| (1)日本側研究者の相手国内滞在費 | × | | | | | | |
| (2)相手国側研究者の国際航空運賃 | × | | | | | | |
| (3)相手国側研究者の日本国内滞在費 | × | | | | | | |
| (4)相手国側研究者の相手国内旅費 | × | | | | | | |
| (5)相手国側研究者の研究経費 | ◎ | Paul Scherrer Institut | Paul Scherrer Institut, Internal Funds for Head of | 1,746 | 2020/9/6 | スイスフラン | 116 |
| (6)相手国開催のセミナー開催経費 | － | | | | | | |
| (7)第三国開催のセミナー開催経費 (日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと) | － | 合計 | | 1,746 | | | |

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EP SRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

| | |
|---|--|
| 事業の型 A 型 | |
| ①相手国名(和文) | 米国 |
| ②拠点機関名(和文および英文) | |
| 和文: マサチューセッツ工科大学 英文: Massachusetts Institute of Technology | |
| ③コーディネーター所属 部署・職名・氏名 (英文) | School of Engineering・Associate Professor・YILDIZ Bilge |
| ④協力機関名(和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。) | |
| 該当なし | |

| ⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと) | 教授級以上 | 助教・准教授等 | ポスドク等若手研究者 | 大学院生 | その他 | 合計 | 第三国所属の研究者(内数) |
|------------------------|-------|---------|------------|------|-----|----|---------------|
| 拠点機関 | 2 | 0 | 2 | 1 | 0 | 5 | |
| 協力機関・協力研究者 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | |
| 合計 | 2 | 1 | 2 | 1 | 0 | 6 | |

| | |
|---|-------------------------------------|
| ⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。) | |
| 所属・職名(専門分野) | 研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。) |
| 該当なし | |

| | | | |
|---|------|---------------|-------------|
| ⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。) | | | |
| 所属機関所在国・所属・職 | 専門分野 | 日本側拠点機関へのメリット | 研究交流に不可欠な理由 |
| 該当なし | | | |

| | | | | | | | | | |
|--|---|--|-----------------------|-------------------|-------------------------|--------|----------------------|----------------------------------|--|
| ⑧相手国側の経費負担 負担した: ○(ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: - | | ⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。) | | | | | | ※参考: 日本側研究交流経費 ¥13,480,355 | |
| | | 支援機関等名 | ファンド・プログラム名 | 日本円換算額 (単位:千円) | 換算レート日 (例:2020/9/12) | 相手国通貨名 | 換算レート(外貨1単位に相当する円貨額) | | |
| A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること | 1 | | | | | | | | |
| (1)日本側研究者の相手国内滞在費 | × | | | | | | | | |
| (2)相手国側研究者の国際航空運賃 | × | | | | | | | | |
| (3)相手国側研究者の日本国内滞在費 | × | | | | | | | | |
| (4)相手国側研究者の相手国内旅費 | × | | | | | | | | |
| (5)相手国側研究者の研究経費 | ◎ | Exelon Corp. | MIT Energy Initiative | 600 | 2020/9/6 | USD | 106 | | |
| (6)相手国開催のセミナー開催経費 | - | | | | | | | | |
| (7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと) | - | 合計 | | 600 | | | | | |

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EP SRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。